



日本ヒープ 協議会

「料理」通じて消費者・企業の「つながり」検討

日本ヒープ協議会は十月十七日、オンラインと会場参加の併用による公開講演会を都内で開催、料理家であり研究家の浜内千波さんが招かれ、「家庭と企業と地球はつながっている」と

いうテーマで「生活者として、企業人として、大切な食の意識」について報告した。浜内さんは、吟味された食品素材を活かして作られた料理を通し「料理は人を幸せにする」というメッセージを発信してきた。料理を通してSDGs（国連持続可能な開発目標）達成に寄与する活動のあり方を提示した。講演の中で浜内さんは「食品ロスは栄養ロスと同じ。健康面から見てもロスの防止が必要」と指摘した。

「SDGsが提起している諸課題には、生活者と企業が同じ方向で取り組むべき課題が多い」とし、企業人としての視

点も併せ持つヒープ活動の強みを示唆した。生活者と企業人にとっての「食」について講演した浜内さんは、時代の変遷により食事の価値も変化して

点も併せ持つヒープ活動の強みを示唆した。生活者と企業人にとっての「食」について講演した浜内さんは、時代の変遷により食事の価値も変化して

公開講演会 食品ロス発生のも指摘

今後の課題として、野菜

「SDGsが提起している諸課題には、生活者と企業が同じ方向で取り組むべき課題が多い」とし、企業人としての視

点も併せ持つヒープ活動の強みを示唆した。生活者と企業人にとっての「食」について講演した浜内さんは、時代の変遷により食事の価値も変化して

点も併せ持つヒープ活動の強みを示唆した。生活者と企業人にとっての「食」について講演した浜内さんは、時代の変遷により食事の価値も変化して

点も併せ持つヒープ活動の強みを示唆した。生活者と企業人にとっての「食」について講演した浜内さんは、時代の変遷により食事の価値も変化して

主流の料理に質的变化が生じ、電子レンジを使えば全ての料理が指一本で作れるようになった。今一度、食べることの大切さを認識することが必要とし、「二〇二五年には四人に一人が認知症になると推計されている。防止には食事への再認識が必要」と説明した。